



# むかい

学校教育目標

- ・かしこく ・やさしく
- ・たくましく ・なかよく

## 後押しの姿勢

校長 川添 倫義

「馬を水辺に連れていくことはできるが、水を飲ませることはできない。」というイギリスのことわざがあります。私の家にはマルチーズがいますが、ケージの水が減ってきているからと新鮮な水に入れ替えても、すぐに飲んでくれるわけではありません。ことわざは、人をやる気にさせることの難しさをたとえたものですが、教師や親が子どもを育てるうえで、心に留めておきたい言葉です。

教師や親は子どもに対して、成長の機会や環境を与えることはできるが、それを活かすかどうかは本人のやる気次第です。子どもに問題集をたくさん買ってあげても子どもにやる気がなければいつまでも本棚に飾ってあるだけ、ということは多くの親が経験することではないでしょうか。

ある協会の役員がいろいろとイベントを行ってもなかなか人が集まらなると悩んでいた時、自分の欲していることをもとに考えるのではなく、相手（観客）の欲している環境は何であるかをつかむために相手（観客）の観察することをもとに考えるようにしたところ、良い変化につながったということです。「サラブレッドの優れた能力を引き出すのは騎手次第である。」とは競馬のジョッキーである武豊氏の言葉です。乗馬の世界では、「上達する最大の秘訣は誰よりも馬を好きになること」と言われているそうです。

対象を観察するためには、対象を好きになる、言い換えれば、対象を尊重するということかと思えます。武豊騎手は、サラブレッドの目、しぐさ、動きを見て、今、どういう気持ちや精神状態かというのを観察し、性格や癖をまで捉えていくようにしているそうです。これは、短時間でできることではなく、長い時間をかけて、対象の存在を尊重する基本姿勢がないとできることはありません。

私は、先生方に「押しつけではなく後押しの姿勢で子どもたちを育ててください。」と伝えています。家庭での生活、学校での生活、地域での生活では、それぞれ子どもたちが成長するために身に付けるべき力が異なっているところはあっても、「育てる」という目的は同じです。子どもと向き合い、子どもに意欲的な活動をさせるためには、まさに子どもを尊重することから始まると思います。子どもが自分と異なる考え方を示しても、「そんな考え方もあるのか」「ユニークな視点だな」という捉えからその後の自分のアプローチの仕方を考えていきたいものです。